



# れんかく

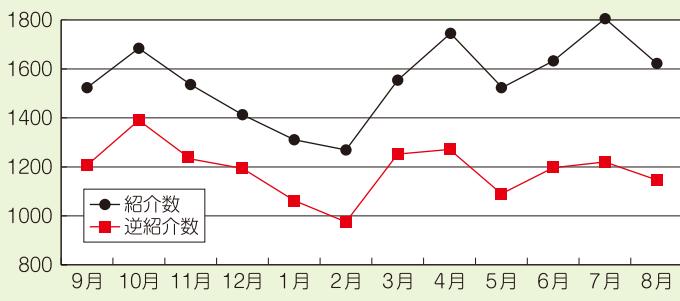
vol. 23  
2014年 10月号形成外科部長  
**池野屋 慎太郎**

「形成外科」は日本においては学会設立が 1958 年と戦後より登場した比較的新しい診療科です。1975 年に一般標榜診療科として公認され、当院には 1982 年安部正之先生が着任され形成外科を開設されました。その後多くの先生方が当院での研修を終了され、各地において形成外科診療の中心的役割を担い、活躍されております。このたびそのように歴史のある松江赤十字病院の 5 代目形成外科部長に就任いたしました。今後も地域の先生方のお力になれるようさらに精進していきたいと思います。4 月より当院形成外科スタッフは専門医 2 人を含む 3 人体制となり、月曜日から金曜日までの午前中に 1 診体制での診療を行っております。診療範囲は熱傷、顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷、唇裂・口蓋裂、手足の先天異常・外傷、小耳症や臍突出症など先天性疾患、母斑および良性腫瘍、悪性腫瘍およびそれに伴う再建、外傷などによる皮膚異常、褥瘡や慢性潰瘍を含めた難

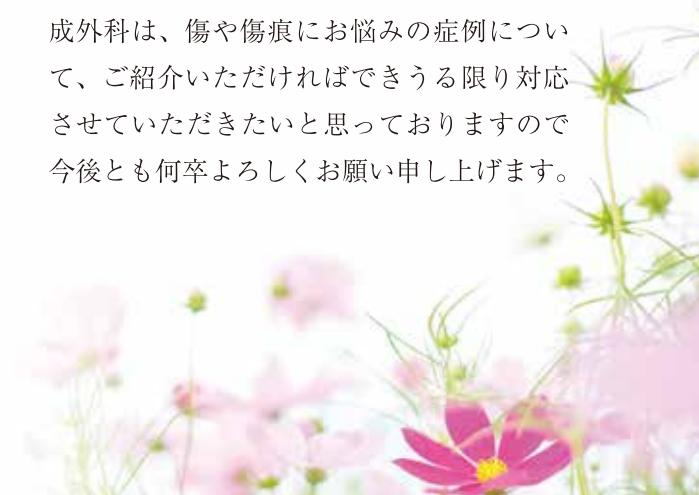
治性潰瘍、眼瞼下垂などの後天性疾患、蜂窩織炎や壞死性筋膜炎などの炎症性・感染性疾患です。当科の治療の際には、全身に影響を及ぼす疾患も多いため、当院の各診療科との連携により治療を行うことが必要となります。当院は各科の垣根がなく、何事にも相談し協力していただける環境にありますので、安心してご紹介いただければと思います。最近では、高齢化および糖尿病の増加により足病変への治療に注目が集まっています。当院でも循環器内科、心臓血管外科と連携し、できる限り大切断（下腿、大腿での切断）を回避した治療を目指しております。以前は大切断が避けられなかった患者さんも血管内治療やバイパス術により足部切断までのところで治療を終了できる症例も増えております。しかし、血行再建はすべての症例に行える治療ではなく、早期発見・早期治療が重要となります。足病変を疑われましたら早期にご紹介いただければ幸いです。また、乳がん切除後の患者さんにおいては 2013 年にインプラント治療が保険で認められ、当院でも同年より保険によるインプラント治療を開始しております。現在までに 5 例に治療を開始し、今後も希望される患者さんにはよく相談のうえ治療を行っていきたいと思います。

当院形成外科は、傷や傷痕にお悩みの症例について、ご紹介いただければできる限り対応させていただきたいと思っておりますので今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

## 紹介・逆紹介件数



ご紹介ありがとうございました。



## キャンサーボードについて

副院長 大居 慎治

キャンサーボードとは病理医、放射線治療医も含めた各専門家を交え総合的にがん患者さんの治療方針などを議論するカンファレンスのことです。がん拠点病院の指定要件になっており、当院は乳腺外科や消化器内科外科合同カンファレンスをキャンサーボードとして届け出していました。ただ一部の診療科や職種に限られていたため、診療科間の連携や多職種参加のチーム医療へいかすという期待もあり、従



前の形態はそのままに病院全体での開催を別に企画し、ようやく今年の5月に病院全体での開催にこぎ着けることができました。

第1回は乳癌の自然歴と化学療法の効果について、第2回は血管内リンパ腫の診断と治療の紹介と、自己決定ができない進行癌患者さんのQOL維持・延命のための輸血の中止は是か非かを問う相談がとりあげられました。第3回は傍腫瘍症候群のためADLの低下した肺癌の患者さんの治療、第4回は播種性血管内凝固症候群のある進行期肺腺癌で、化学療法の適応や観血的処置を伴う緩和ケアの是非について議論しました。第5回は再発卵巣がんを取り上げ、救援化学療法はいつまですべきかを議論しました。毎回ホットな議論があり当該患者さんの治療方針決定にも有意義であったとの意見や、専門外領域のことがわかり勉強になったとの感想が寄せられています。

今後も原則毎月第4木曜日に開催の予定です。各科持ち回りで症例を提示と10分程度のミニレクチャーをお願いしています。また担当医として困っている症例の相談も随時受け付けています。今後も参加者の意見を取り入れつつ、よりよいものにしていきたいと考えています。



## 心のケアチーム派遣

血液内科 越野 康之

去る8月20日に広島県北部で発生した豪雨による土砂災害に対して、8/29～30の2日間、看護師・心のケア要員・薬剤師・主事の総勢9名で被災地での救護活動に行ってまいりました。

活動内容は避難所の巡回で、被災者の方の身体的・精神的サポートでした。求められる役割についての情報が不十分なまま現地に入り、いざ活動を開始すると、身体的な医療行為より精神面でのケアが主として求められている状況でした。

土砂災害の記憶が生々しく、雨音がするだけで不安発作を起こす女性や、不眠に悩む子供などが避難しておられました。また、この度の災害は非常に局地的な被災で、通りを一本逸れると、平常どおりの街が広がっているという状態で、医療資源も含むインフラがほぼ整った状態

での避難生活であり、それがむしろ「周囲で自分たちだけが被災者」という状況を作り出し、避難生活の精神状態をより困難にしているようでした。

チームのメンバーの積極的な行動やサポートにより、被災者の方に感謝の言葉もいただきながら活動して無事に帰院することが出来ました。災害の規模や状況に応じた災害支援のあり方、一緒に活動するチームのメンバー構成の大切さについて考えさせられた活動でした。



## 新任医師紹介



呼吸器外科

佐藤 泰之 [9/1～]

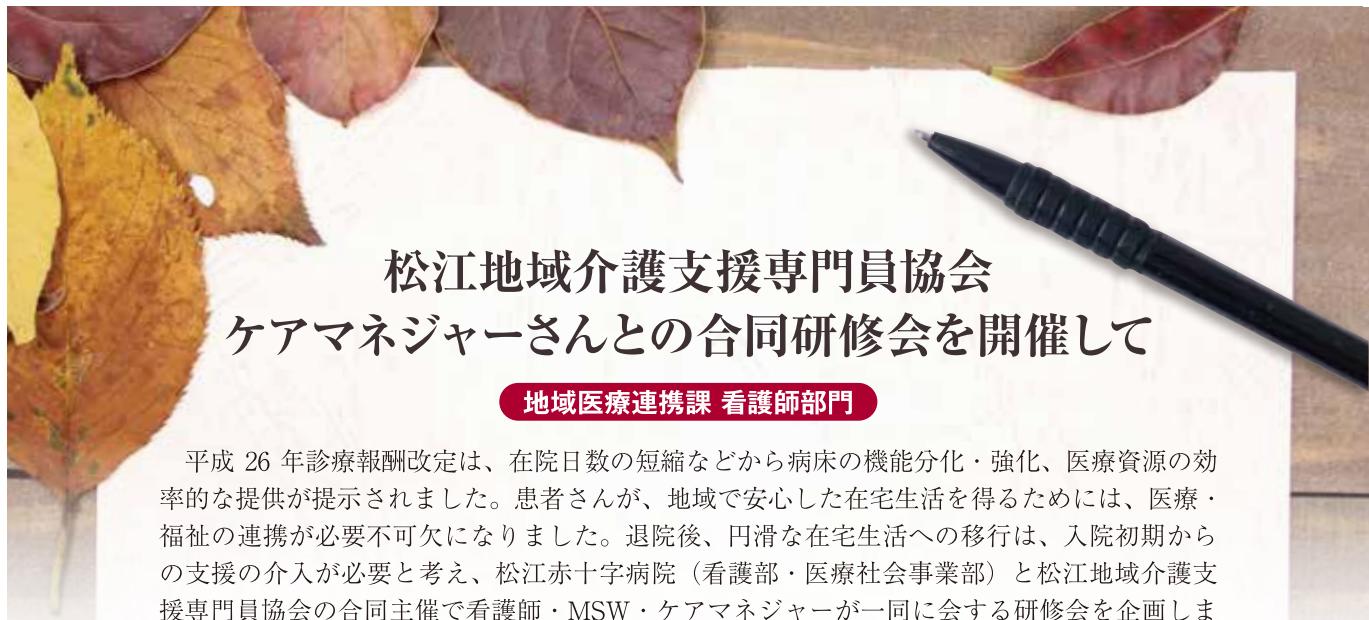
大切な命に優劣などなく、「どんな田舎でも最新かつ最高の医療を提供する」という信念で、患者さんの心にも関わつて親身な診療を心がけています。



産婦人科

坪倉 かおり [9/1～]

江津より転勤してきました。自分にできることを精いっぱいやろうと思います。よろしくお願いします。



## 松江地域介護支援専門員協会 ケアマネジャーさんとの合同研修会を開催して

### 地域医療連携課 看護師部門

平成 26 年診療報酬改定は、在院日数の短縮などから病床の機能分化・強化、医療資源の効率的な提供が提示されました。患者さんが、地域で安心した在宅生活を得るために、医療・福祉の連携が必要不可欠になりました。退院後、円滑な在宅生活への移行は、入院初期からの支援の介入が必要と考え、松江赤十字病院（看護部・医療社会事業部）と松江地域介護支援専門員協会の合同主催で看護師・MSW・ケアマネジャーが一同に会する研修会を企画しました。

秋晴れの 9 月 20 日、当院講堂において「知っていますか？入院時カンファレンスの重要性」と題して研修会を開催しました。当日は、110 名の参加があり（ケアマネジャー 75 名、看護師 22 名、医療ソーシャルワーカー 8 名）、講堂は人・人で埋め尽くされました。このようにたくさんのケアマネジャーさんが来院するのは、病院始まって以来のことと大変うれしく思いました。研修会では、当院看護部の脇田副看護部長から平成 26 年診療報酬改定を受けての地域連携のあり方、同医療社会事業部の瀬藤 MSW からは現在おこなっている入院時カンファレンスの効果の説明がありました。これまで疾患の治療がほぼ終わってからケアマネジャーさんや地域の医療福祉職と情報共有の場をもっていました。それを入院早期から情報共有することで、患者さま本人やご家族さまの思いを知ること、自宅や施設での生活を理解し、早期から患者さまの個別ケアにつながることがわかりました。その後のグループワークでは、活発な意見交換が行われ、「入院時カンファレンスなんて考えも及ばなかった」との驚きや、「やはり入院時カンファレンスが必要」などさまざまな意見がありました。そして、何よりも「顔の見える関係」が重要であるということには、参加者全員の声だったように思います。

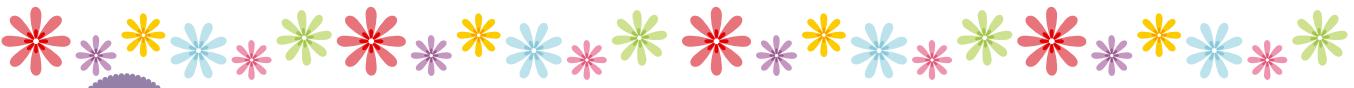


## 松江緑内障眼底読影勉強会を開催して

眼科部長 谷戸 正樹



平成 26 年 10 月 17 日、当院本館 6 階の講堂で、「松江緑内障眼底読影勉強会」を開催しました。琉球大学眼科講師の酒井寛先生をお招きし、「OCT を併用する眼底読影の実際」との題名で特別講演をして頂きました。講演の前半は、緑内障の本質は網膜神経節細胞の選択的な変性であること、緑内障発症・進行の 3 大危険因子（加齢、近視、眼圧）の中で眼圧が唯一修飾可能であり、そのために眼圧下降が緑内障の治療法として選択されること、をわかりやすく教えて頂きました。後半では、眼科臨床に広く用いられるようになった OCT (光干渉断層計) を用いた緑内障診断について、実際の症例を供覧しながら、特に視野に異常を来たす前の極早期緑内障で OCT が有用であることを示して頂きました。当院だけではなく、他施設の医師、看護師、視能訓練士の方々に多数ご出席頂き、眼科関連の地方会としては、これまで最大規模の講演会になりました。



## 第8回 地域医療従事者 スキルアップセミナーを終えて

地域医療連携課長 齊藤 文章



去る10月18日(土)「第8回地域医療従事者スキルアップセミナー」を開催しました。今回は、「慢性閉塞性肺疾患(COPD)との関わり～COPDは怖くない～」と題し、呼吸器内科徳安宏和部長から「慢性閉塞性肺疾患の最近の話題」と題して講演いただきました。続いて、慢性呼吸器疾患看護認定看護師野津栄子看護師から「自分らしい生活を送るために在宅酸素療法～酸素は友達～」、さらに佐々木順一理学療法士からは「COPDと呼吸リハビリテーション」と題して講演頂きました。どの演題もとても素晴らしい内容で、ご参加頂いた皆様には満足いただけたのではないかと思います。参加については事前申し込みで院外から64名の申込みをいただきました。当日は約70名のご参加を頂き、無事成功裏に終えることができました。今後も地域の医療従事者の皆様との連携を深めていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。



## 第11回

## 松江赤十字病院地域連携交流会を終えて

地域医療連携課長 齊藤 文章

去る8月7日(木) ホテル一畑にて「第11回松江赤十字病院地域連携交流会」をかかりつけ医の先生方52名、院内の医師・職員68名の合計120名の参加を得、無事開催する事ができました。

第一部では「松江赤十字病院におけるがん治療・外科治療」をテーマに当院の4名の先生方から講演頂きました。当院のがん治療や外科治療、治療実績について理解を深めて頂けたものと存じます。

第二部の交流会では香川幸司副院長の司会で、秦公平院長、島根県医師会会长小村明弘先生から挨拶を頂き、磯和理貴副院長の乾杯の後和やかなうちに

親睦を深めさせて頂きました。途中で新副院長、新事務部長、新看護部長、新部長の紹介をさせて頂きました。かかりつけ医の先生方からは、「当院の治療内容について知ることができ、良い機会となりました」というご意見があった反面、「親睦の時間が足りなかった」などのご意見を頂き、来年に活かしたいと存じます。ご参加頂きました先生方にはこの場をかり厚く御礼申し上げます。



松江赤十字病院眼科 市民公開講座

### 眼の病気を正しく理解しましょう

～白内障 緑内障 加齢黄斑変性～

平成26年

司会：松江赤十字病院 眼科 部長 谷戸 正樹

①白内障について  
松江赤十字病院 眼科 医師 佐野 一矢 先生

②緑内障について  
松江赤十字病院 眼科 部長 谷戸 正樹 先生

③加齢黄斑変性について  
松江赤十字病院 眼科 副部長 池田 欣史 先生

12/14(日)  
13:00～16:00  
(受付 12:30～)

松江赤十字病院  
本館6階講堂



松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地  
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261